



NPO 法人 COMFORT
Instagram アカウント
npn.comfort
右の QR コードから
アクセスできます

（阪口晃彦）

心地よい居場所づくりを～NPO 法人 COMFORT

昨年 8 月に設立された特定非営利活動法人 COMFORT。子育て支援や女性支援に関する事業を行い、子どもの健全育成と女性の自立支援を目指しています。法人が初めて開催する子ども食堂の現場でお話をうかがってきました。



当日提供されたメニュー



和歌山県の子ども食堂は増加傾向
県が把握しているだけでも、2022年12

月時点では46か所だった子ども食堂は、2024年12月時点で103カ所運営されており、この2年で倍以上になっていきます。岸本周平知事は「1小学校区に1つは子ども食堂を置きたい」として県内全236校区での開設を目指し、取り組みを進める考えを示しています。関連セミナーやシンポジウムの開催による啓発と広報、子ども食堂を開設する際

これからの活動
次回のワクワク食堂は2月11日（火・祝）で17時から、県子ども食堂応援ネットワークより寄付されるプリンを提供予定。約50食分が準備され、大人は300円、子ども（中学生まで）は無料です。また2月22日（土）14時から子育ての悩みや、ママさんの悩みを話し合うお茶会も開催されます。心地よい居場所づくりを心掛け、みんなが寄り合える場所をつくっていきます。

の経費補助のための制度改正を行ってまいりました。県社会福祉協議会を事務局とした「県子ども食堂応援ネットワーク」の設立、県内の全ての振興局に担当窓口を置くことで、継続的な運営支援と食材や場所などを提供してくれる企業や団体と連携を強化しています。

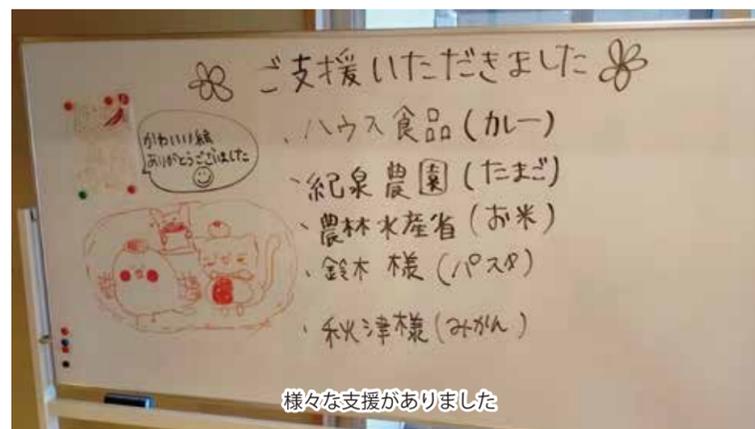
子育てママが集って設立
「COMFORT」は子育てを経験した母親の皆さんが中心メンバーとなって設立されました。これまでの自分たちの経験を活かして、女性の自立や子育てを支援できないかと考え、思い至ったのが子ども食堂の開設です。今月、法人として初めて開催した子ども食堂「ワクワク食堂」には30人近くの親子が来訪してくれました。この日のメニューはカレーライス、スパゲッティサラダ、プリンで、企業や個人から支援をいただいた食材をメインに提供されました。訪れた親子の笑顔と「おいしかった」と言ってもらえたことが何よ

子ども食堂に期待される役割
子ども食堂は当初、子どもの貧困への直接的な対応として、所得の低い家庭の子どもを対象に食事の提供が行われたこともあり、「貧困対策」としてのイメージが先行、今なおそういった印象が拭えない面もあり、子ども食堂はあくまで民間の活動なので行政的な「規格」というものがなく、子ども食堂ごとに十人十色の運営がなされていることは考慮すべきですが、子どもたちが食事の提供を受けるだけでなく、地域住民や多世代間の交流拠点としての役割が期待されています。

りも嬉しかったとのこと。子ども食堂は当初、子どもの貧困への直接的な対応として、所得の低い家庭の子どもを対象に食事の提供が行われたこともあり、「貧困対策」としてのイメージが先行、今なおそういった印象が拭えない面もあり、子ども食堂はあくまで民間の活動なので行政的な「規格」というものがなく、子ども食堂ごとに十人十色の運営がなされていることは考慮すべきですが、子どもたちが食事の提供を受けるだけでなく、地域住民や多世代間の交流拠点としての役割が期待されています。



当日の様子



様々な支援がありました

2024年度 わかやま SDGs パートナースHIP 基金 今年度のご寄附を受け付けています

みんなの力で SDGs 達成を！



今年度は子ども食堂・地域食堂をはじめ、 地域コミュニティの再生につながる活動を応援します

和歌山県内の「子ども食堂」は和歌山県調べで 103 カ所（2024 年 12 月末現在）となっており、日々増加しています。和歌山県は全小学校区に 1 カ所、約 200 カ所の子ども食堂の開設を目指して取り組みを進めています。

名称こそ「子ども食堂」ですが、子どもだけではなく、保護者、一人暮らしの年寄りなど様々な方が利用できる「地域食堂」としての役割を担う場所が増えており、子ども食堂・地域食堂が「地域コミュニティの核のひとつ」を担えるのではないかと期待されています。

一方、住民が集まれる場として、自宅にある不要になった本を持ち寄りみんなで共有し楽しむ「みんなの図書館」、空き家や空き店舗を活用した「みんなの居場所」などといった形で地域コミュニティの再生を目指す取り組みも急速に広がっています。

そこで、今年度のわかやま SDGs パートナースHIP 基金では、子ども食堂や地域食堂など「食を通じた地域福祉・コミュニティ再生」、みんなの居場所など「コミュニティづくり活動」に携わる団体に対する助成を実施します。現在、この助成金の原資となる基金へのご寄附受付を実施しています。

高齢化の進展だけではなく、高齢人口の減少も始まり、今後の地域の担い手になる現役世代への負担がますます増大することが懸念されています。みなさんのご寄附を、地域コミュニティの再生等に役立てられるよう準備を進めています。ぜひみなさんのご協力をいただきますようお願いいたします。

主な使途

- ▶ 子ども食堂・地域食堂の運営経費
 - ▶ みんなの図書館・みんなの居場所の運営経費・初期費用として
- 特に、その事業をおこなうことで「地域にどのような効果が期待できるのか」を重視して、審査を実施する予定です。

ご支援の方法

- ▶ 1 口 3,000 円からクレジットカード決済・銀行口座への振り込みにより受け付けます。右の QR コードからアクセスできます。
- ▶ 本基金へのご寄附は寄附金税制の対象となります。



※ 寄附金控除について

個人の方は、ご寄附いただいた金額から 2,000 円を差し引いた金額の最大 50%が、確定申告により所得税等から控除されます。(例) 1 万円をご寄附いただいた場合は、最大 4,000 円が所得税等から控除されます。

法人の場合は損金算入限度額が拡大されます。(例) 資本金 1,000 万円、所得金額 1,000 万円の場合、一般損金算入限度額約 6.9 万円とは別に、特別損金算入限度額約 33.1 万円までのご寄附が損金に算入できます。

【運営】

認定特定非営利活動法人わかやま NPO センター
〒640-8331 和歌山市美園町 5-6-12
TEL 073-424-2223 FAX 073-423-8355 info@wnc.jp https://wnc.jp/
【事務所不在時、電話は和歌山県 NPO サポートセンターに転送されます】

和歌山市 NPO・ボランティア推進協議会だより

なるコミふくろう菜園教室

日程	2月20日(木)
	15:00～16:00
場所	なるコミ(和歌山市鳴神・宇都宮病院内)
内容	冬野菜の有機栽培を学びます
参加費	500円(資料代)
定員	10組
主催	NPO法人健康とコミュニティを支援するなるコミ
備考	申し込みは agri.agriculture.2022@gmail.com まで

このコーナーでは和歌山市 NPO・ボランティア推進協議会加盟団体からのイベント情報を不定期にお届けしています。